

10年目の「死刑廃止のための大道寺幸子基金」

死刑囚の作品にふれる

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

死刑囚の母であった大道寺幸子さんが2004年に亡くなり、その遺された思いを継ぐものとして「死刑廃止のための大道寺幸子基金」が発足して10年になります。

基金では、死刑囚から絵画や文芸作品を募り、毎年、10月10日（世界死刑廃止デー）前後の時期に、作家の加賀乙彦さんら選考委員会の講評とともに、その作品に触れる集いを開いてきました。

☆☆☆

今年九月、過去の応募絵画作品のほぼ全点を展示した「死刑囚絵画展」が渋谷で開かれ、10日間で4000人もの来場がありました。

「〈死刑囚〉という記号でスタンプされたイメージから、どんどん命をもつ人がたちあがってくる」……死刑制度への賛否を別にして、作品をご覧になった方からのアンケートには、こうした感想がたくさん寄せられました。

死刑囚が一人ひとり個性を持った人間であること、その姿を具体的に知ることから、死刑の問題に目を向けてもらえればと思います。

☆☆☆

幸子基金は当初10年間の期間限定で発足しました。「死刑廃止のための」基金が、いつまでも続いていてはいけなないと考えたからです。

しかし、残念ながら、厳罰化につながるような悪法が次々と準備され、死刑制度が見直される機運も遠のいていくばかりのような「10年後」を迎えています。

幸い、再審無罪となった島田事件の元死刑囚、赤堀政夫さんからの申し出を受け、基金は、更に5年間「死刑廃止のための大道寺幸子・赤堀政夫基金」として続けられることになりました。

☆☆☆

ところで、前法相が「うちわ」等の問題で辞任し、10月20日に法務大臣に任命された上川陽子さんは、静岡1区を地元選挙区としています。静岡県は島田事件、袴田事件など、数々の有名な冤罪事件の舞台です。新法相は、死刑囚を身近な人間と感じられているでしょうか。